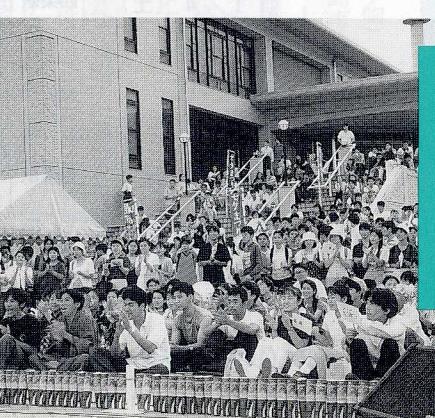


大学祭を斬る!



実行委員会の想い

ご存じのように、大学祭のテーマには、実行委員会の大学祭への想いが込められています。今回の大学祭は、東広島キャンパスでは三回目にあたります。一回目、二回目に築いてきた基礎の上に立ち、大きく飛躍したいと考えています。

そのような年にあたる今回の大学祭のテーマは、「みの虫の外出（左足小指第一関節の叫び）」です。筆者||今回のテーマを解説してください。

委員長||まず、テーマ解説をする前に、私たちが今年目標にしてきたことについて話します。

私たちは、次の三つのことを目標にしてきました。一つは、「広島大学の学生生活の活性化」です。この広大な東広島キャンパスでは、その広さゆえに各学部ごとでかたまりやすく、他学部との交流が少なくなりがちですよね。

筆者||少數の集団でかたまるのは、当てはまっていますね。

しかも、最近の学生層における無気力の傾向もあって、東広島キャンパスには「活気」というものも

広島大学大学祭は第一回目が開催されてから、毎年欠かすことなく開催されてきました。そして今年も大学祭の季節が訪れ、第四十四回目の大学祭開催が間近に迫ってきました。そこで、大学祭実行委員会小島委員長との対談を交えながら、今年の大学祭を斬りたいと思います。

第44回広島大学大学祭

「みの虫の外出 ～左足小指第一関節の叫び～」

11月3日(金) 12:00~21:00
4日(土) 12:00~21:00
5日(日) 12:00~21:00

東広島キャンパス 総合科学部周辺

のが次第に失われつつあるような気がします。

私たちは、このような無気力を、大学祭という

場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その場を積極的に提供していくことです。

最後の目標は何ですか？

そこで最後は、「地域や教職員の方々との交流」です。大学が大学のみで孤立するのではなく、地域の方々との交流が大切である、と私たちは考えています。大学祭は、地域の方々に大学について知つてもらういい手段になるでしょう。

また先に述べたように、広大生の多くが、少数の集団の中で自分の殻に籠もつて、自分たちだけの世界をつくっています。そこには、他の学生との交流もなければ、もちろん、地域や教職員の方々との交流もありませんよね。

大学祭は、こういった方々との交流の場であるべきと考えています。

今後の大学祭には、西条で行われる三回目ということもあって、大学祭のカラーが特にあります。

そこで、「フェニックス・チャンピオンシップ」を大学祭のメイン企画とし、恒例の企画にするところによって、大学祭にカラーをつけようと考えています。

この「フェニックス・チャンピオンシップ」を運営するスタッフや参加チームは、ほぼ全学部から集まっています。大学祭のカラーとなり、おかげで、全学部で盛り上がる企画にしたいと考えています。

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」同時に、大学の活性化への小さな一步となる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

目指している目標はよくわかりましたが、これと今年のテーマと、どのように関係しているのでしょうか。

それらの現状を何かに例えるなら、一人一人がみの虫のような蓑を持っていて、その蓑で自分の身を守り、他の人を寄せつけないように努めている……。このように私たち達は捉えました。

身を守っているだけでは、人間、成長しません。言いたいこと、やりたいこと、自分から積極的に行動しなければ、何も成し遂げられません。

だから、自分の殻を打ち破り「外出」してほしい、積極的に自分をアピールしてほしいのです。

サブ・テーマの「左足小指第一関節の叫び」とはどういう意味ですか。

「左足小指」という小さな部分でも、主張する時は主張します。

小指をぶつけた時にですか。

そうですね。（笑）

左足小指でも、自分をはっきりと主張します。

私たち一人一人は、大学の中では小指のようなものです。そんなちっぽけな私たちですが、自分の存在をはっきりと主張してほしいのです。

このテーマには、「自分だけの狭い世界を打ち捨てて、積極的に自分をアピールする、そんな大学祭にしたい」という私たちの想いを込めました。

企画を立てた。

「積極的に大学祭に参加してほしい」という今回のテーマを現実のものにするために、実行委員会企画あるいは大学祭特別企画としてさまざまな企画を立てた。

実行委員会の想いの実現

「積極的に大学祭に参加してほしい」という今回のテーマを現実のものにするために、実行委員会企画あるいは大学祭特別企画としてさまざまな企画を立てた。

取りあえず、当日参加型の企画を多くしました。例えば、「学部対抗別綱引き」があります。学部内での交流を深めてもらおうと考えています。その他「オリエンテーリング」もあります。学内に何か所かポイントを設置して、全てのポイントを回れば大学祭を一通り楽しめる、という形式をとっています。

また、地元企業であるマツダによるモータースポーツなどを予定しています。モーター・ショーや、地域との繋がりを深めるだけでなく、来場者に自動車についての正しい知識を得てもらい、最近急増している大学生の交通事故を防止できたら、という意図も含まれています。

今回から始まる「フェニックス・チャンピオンシップ」ですが、来年からも続けるとお聞きしたのですが、なぜ「恒例」にこだわるのですか。

最後に

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

が次第に失われつつあるような気がします。私たちは、このような無気力を、大学祭という場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その場を積極的に提供していくことです。

最後の目標は何ですか？

そこで最後は、「地域や教職員の方々との交流」です。大学が大学のみで孤立するのではなく、地域の方々との交流が大切である、と私たちは考えています。大学祭は、地域の方々に大学について知つてもらういい手段になるでしょう。

大学祭は、こういった方々との交流の場であるべきと考えています。

今後の大学祭には、西条で行われる三回目ということもあって、大学祭のカラーが特にあります。

そこで、「フェニックス・チャンピオンシップ」を大学祭のメイン企画とし、恒例の企画にするところによって、大学祭にカラーをつけようと考えています。

この「フェニックス・チャンピオンシップ」を運営するスタッフや参加チームは、ほぼ全学部から集まっています。大学祭のカラーとなり、おかげで、全学部で盛り上がる企画にしたいと考えています。

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

が次第に失われつつあるような気がします。私たちは、このような無気力を、大学祭という場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その場を積極的に提供していくことです。

最後の目標は何ですか？

そこで最後は、「地域や教職員の方々との交流」です。大学が大学のみで孤立するのではなく、地域の方々との交流が大切である、と私たちは考えています。大学祭は、地域の方々に大学について知つてもらういい手段になるでしょう。

大学祭は、こういった方々との交流の場であるべきと考えています。

今後の大学祭には、西条で行われる三回目ということもあって、大学祭のカラーが特にあります。

そこで、「フェニックス・チャンピオンシップ」を大学祭のメイン企画とし、恒例の企画にするところによって、大学祭にカラーをつけようと考えています。

この「フェニックス・チャンピオンシップ」を運営するスタッフや参加チームは、ほぼ全学部から集まっています。大学祭のカラーとなり、おかげで、全学部で盛り上がる企画にしたいと考えています。

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

が次第に失われつつあるような気がします。私たちは、このような無気力を、大学祭という場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その場を積極的に提供していくことです。

最後の目標は何ですか？

そこで最後は、「地域や教職員の方々との交流」です。大学が大学のみで孤立するのではなく、地域の方々との交流が大切である、と私たちは考えています。大学祭は、地域の方々に大学について知つてもらういい手段になるでしょう。

大学祭は、こういった方々との交流の場であるべきと考えています。

今後の大学祭には、西条で行われる三回目ということもあって、大学祭のカラーが特にあります。

そこで、「フェニックス・チャンピオンシップ」を大学祭のメイン企画とし、恒例の企画にするところによって、大学祭にカラーをつけようと考えています。

この「フェニックス・チャンピオンシップ」を運営するスタッフや参加チームは、ほぼ全学部から集まっています。大学祭のカラーとなり、おかげで、全学部で盛り上がる企画にしたいと考えています。

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

が次第に失われつつあるような気がします。私たちは、このような無気力を、大学祭という場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その場を積極的に提供していくことです。

最後の目標は何ですか？

そこで最後は、「地域や教職員の方々との交流」です。大学が大学のみで孤立するのではなく、地域の方々との交流が大切である、と私たちは考えています。大学祭は、地域の方々に大学について知つてもらういい手段になるでしょう。

大学祭は、こういった方々との交流の場であるべきと考えています。

今後の大学祭には、西条で行われる三回目ということもあって、大学祭のカラーが特にあります。

そこで、「フェニックス・チャンピオンシップ」を大学祭のメイン企画とし、恒例の企画にするところによって、大学祭にカラーをつけようと考えています。

この「フェニックス・チャンピオンシップ」を運営するスタッフや参加チームは、ほぼ全学部から集まっています。大学祭のカラーとなり、おかげで、全学部で盛り上がる企画にしたいと考えています。

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

が次第に失われつつあるような気がします。私たちは、このような無気力を、大学祭という場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その場を積極的に提供していくことです。

最後の目標は何ですか？

そこで最後は、「地域や教職員の方々との交流」です。大学が大学のみで孤立するのではなく、地域の方々との交流が大切である、と私たちは考えています。大学祭は、地域の方々に大学について知つてもらういい手段になるでしょう。

大学祭は、こういった方々との交流の場であるべきと考えています。

今後の大学祭には、西条で行われる三回目ということもあって、大学祭のカラーが特にあります。

そこで、「フェニックス・チャンピオンシップ」を大学祭のメイン企画とし、恒例の企画にするところによって、大学祭にカラーをつけようと考えています。

この「フェニックス・チャンピオンシップ」を運営するスタッフや参加チームは、ほぼ全学部から集まっています。大学祭のカラーとなり、おかげで、全学部で盛り上がる企画にしたいと考えています。

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

が次第に失われつつあるような気がします。私たちは、このような無気力を、大学祭という場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その場を積極的に提供していくことです。

最後の目標は何ですか？

そこで最後は、「地域や教職員の方々との交流」です。大学が大学のみで孤立するのではなく、地域の方々との交流が大切である、と私たちは考えています。大学祭は、地域の方々に大学について知つてもらういい手段になるでしょう。

大学祭は、こういった方々との交流の場であるべきと考えています。

今後の大学祭には、西条で行われる三回目ということもあって、大学祭のカラーが特にあります。

そこで、「フェニックス・チャンピオンシップ」を大学祭のメイン企画とし、恒例の企画にするところによって、大学祭にカラーをつけようと考えています。

この「フェニックス・チャンピオンシップ」を運営するスタッフや参加チームは、ほぼ全学部から集まっています。大学祭のカラーとなり、おかげで、全学部で盛り上がる企画にしたいと考えています。

大学祭が「自由な表現の場」であり、「地域・教職員の方々との交流の場、他学生との交流の場」であり、「明日につながる何かを見つけ、学生生活の活性化へのきっかけとなる場」になることは、私たちの目標であり、広大生が望んでいる大学祭の姿であると考えています。

理想の大学祭にするために、広大生の積極的な参加を求めています。学生だけでなく教職員の方々にも多数参加していただければ、第44回大学祭はきっとすばらしいものになると信じています。積極的に「外出」してみてください。

が次第に失われつつあるような気がします。私たちは、このような無気力を、大学祭という場を持つことで取り戻そうと考えています。

二つ目は、「サークル活動の自由な表現の場」です。

広島大学大学祭は、広島大学構成員のための「自主的で自由な表現の場」です。その